

デザイナーのための経済コラム(20)

—国際情勢について思うこと—

国際情勢はパンデミック以来、ロシアのウクライナ侵攻によって、国連の組織、エネルギー問題、食糧問題、通商問題、国の安全保障などなど、さらに複雑になってきました。問題は外交、内政、産業界、各家庭、個人の生活にまで大きな影響を受けています。

これまでの経験だけでは将来に対応できない様相にも思えます。しかし、歎いてばかりしておれません。さまざまな分野で皆さんは知恵をふり絞っています。いまこそ、創造性をフルに発揮して困難を乗り越える時だと思えます。

仕事の内容も、仕事の仕方、仕事のTPOをどのように変えるかが課題だと思えます。どんな時代でも変わらないものは自然の原理、法則です。数学、化学、物理の世界は変わりません。変わるとすれば、今までで分からなかったことが分かるようになったり、分かっていたつもりの方が間違っていたと気付いたり、人間側が変わることだと思えます。

人間側の変化は、国際的な条約、国際法、国際的な契約などが変化せざるをえなくなり、その結果、国内にその影響が波及してきます。現に、エネルギー、食糧、木材、エアメタルのサプライチェーン、が変化し、消費者物価に大きな変化をもたらしています。

建築、インテリア産業分野では材料のサプライチェーンがどのように変わるかが問題です。また、商業分野では顧客の購買心理、行動パターンがどのように変わるかも問題です。

建築・インテリア産業分野ではこれまでのCO2削減以上に、エネルギー効率、が設計に求められてくると思えます。開口部、壁面、屋根、床の断熱性能のコストパフォーマンスを高くすることが求められ、またセールスポイントにもなってくと思われれます。それが結果的にCO2の削減になり、地球温暖化防止に寄与することになると思えます。

日本に限らず、世界的に温暖化、気候変動により自然災害が多発しています。特に日本では地震が頻発しています。日本建築の物理的、構造的耐震性能は飛躍的に強化されました。しかし、電力、ガス、水道、物流のインフラは相対的に脆弱になったように思えます。自然災害に対応して、政府、自治体は備蓄を進めています。

(指定避難所には地域住民の2%、2日分の飲料水が備蓄されているだけです。) それらの備蓄は、災害が大きくなればなるほど、機能しなくなります。食料品の備蓄としてパントリーが増えていますが、備蓄すべきものはまだまだあります。これも課題と思えます。

不幸中の幸いにも、ロシアのウクライナ侵攻で、ウクライナの主要都市の地下鉄駅、大規模工場の地下避難所は皮肉にも、ソ連の冷戦時代に核戦争に備えて作ったものと思われれます。日本の主要都市の地下鉄駅や地下街、ビルの地下は住民の避難所になり得るのだろうか、と考えさせられます。

電力は歴史的に長い間、交流が主流でした。しかし、半導体の発達のおかげで、TV、携帯電話などの通信危機だけでなく、冷蔵庫、エアコンなどの動力に、またソーラーパネルなどの発電時だけでなく、電力使用時にも、交流⇄直流 の変換をして機能・効率を高めることが一般化しています。

建築、インテリアの機能・性能・用途についての概念も変わってくると思えます。非常時、災害時の安全性は物理的な性能だけでなく、心理的、社会的、生活的な機能、安全性にまで配慮しなければならなくなったと考えます。

皆さんはどのようにお考えでしょうか。

(T.K.)